

マサバ (太平洋系群) ①



■ マサバ太平洋系群の現在の状況

マサバは日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち太平洋側に分布する群である。

図1 分布図

分布の中心は日本の太平洋側。産卵場は日本の太平洋南岸。

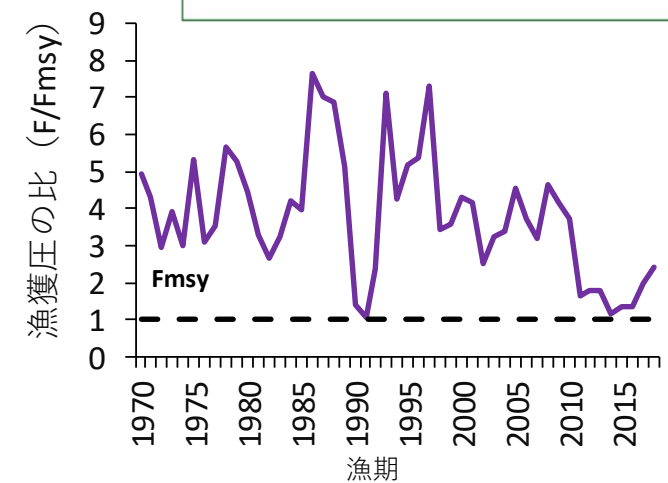
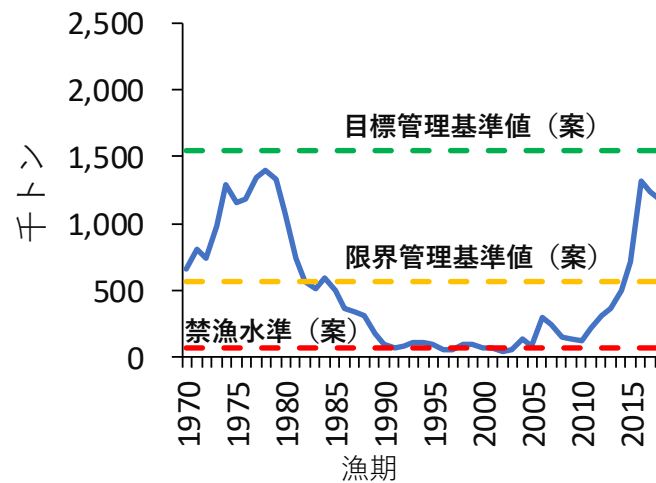
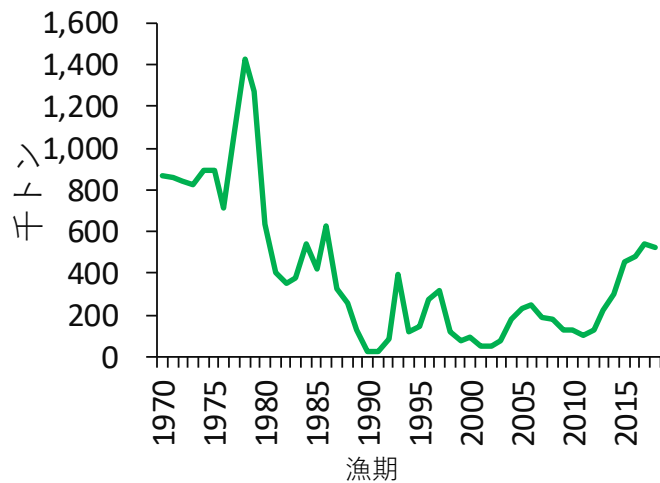
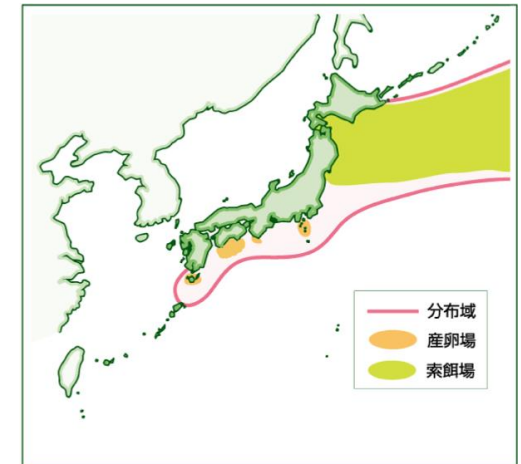


図2 漁獲量の推移

漁獲量は、1970年代は高い水準で推移したが、1980年代に減少し、1990年代および2000年代は低い水準で推移。2013年漁期以降は増加傾向を示し、2018年漁期の漁獲量は527千トン。

図3 親魚量の推移

親魚量は、1990年代、2000年代は低い水準で推移。2010年代以降は増加傾向を示し、2018年漁期の親魚量は1,185千トン。

図4 漁獲の強さの推移

漁獲圧 (F) は、1990年代後半以降、増減を繰り返しながら減少傾向。

管理基準値、禁漁水準および漁獲管理規則については、8月に開催された資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）に提案したものである。その後の資源評価の更新を反映して本資料を作成した。

マサバ (太平洋系群) ②

■ 年齢別資源尾数と神戸プロット

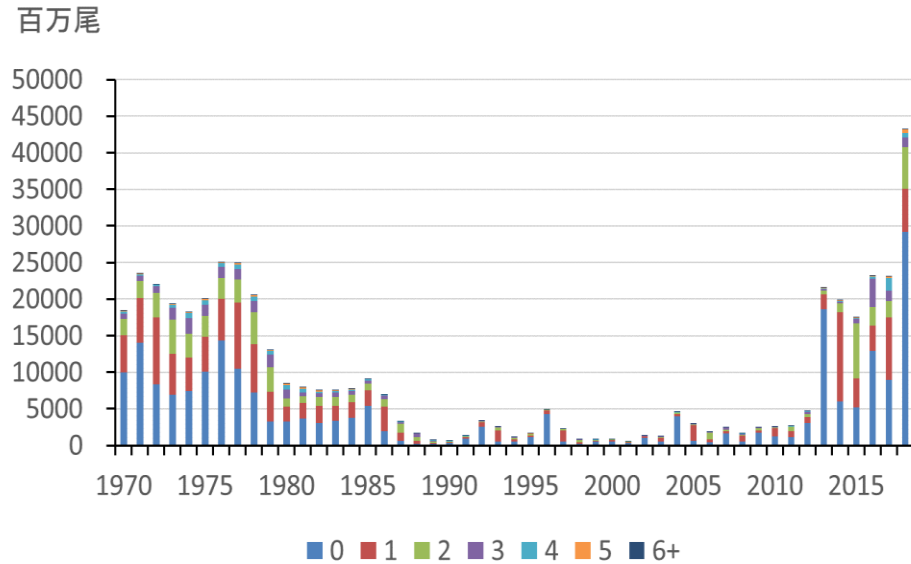


図5 年齢別資源尾数

0歳（青）、1歳（赤）を中心に構成されている。近年、特に2013年級群以降の加入量（0歳の資源尾数）が多く、資源は増加に転じた。2015年漁期以降、2歳以上も増加している。

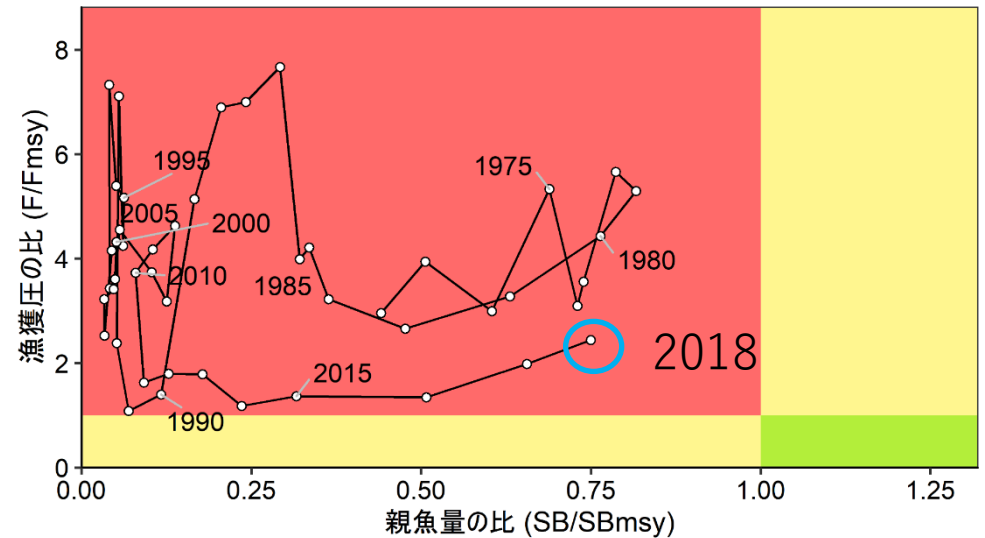


図6 神戸プロット（神戸チャート：3年移動平均値）

漁獲圧 (F) は、1970年漁期以降すべての漁期年において、最大持続生産量を実現する漁獲圧 (Fmsy) を上回っている。親魚量は、1970年漁期以降すべての漁期年において、最大持続生産量を実現する親魚量 (SBmsy) を下回っている。

マサバ (太平洋系群) ③

■ 管理基準値案と漁獲管理規則案等

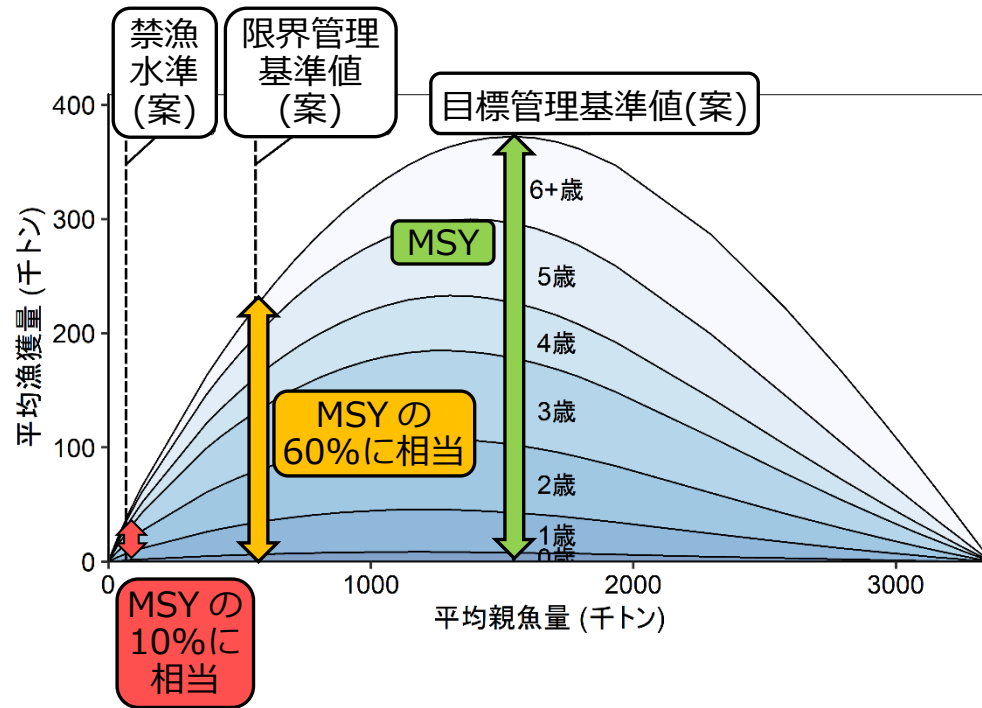


図7 MSYと管理基準値案の関係

本系群の目標管理基準値としては最大持続生産量（MSY：372千トン）が得られる親魚量（SB_{msy}）を、限界管理基準値としてはMSYの60%の漁獲量が得られる親魚量を、禁漁水準としてはMSYの10%の漁獲量が得られる親魚量を提案する。

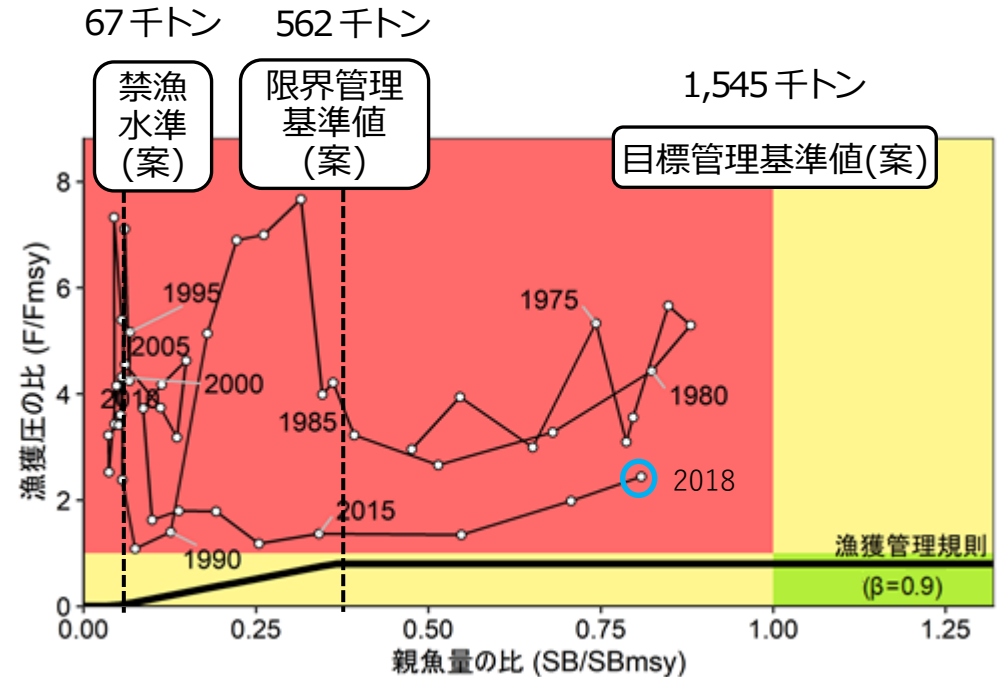


図8 漁獲管理規則案

2018年漁期の親魚量は、目標管理基準値案を下回るが、限界管理基準値案は上回っている。βを0.9とした場合の漁獲管理規則案（※）を黒い太線で示す。2018年漁期のプロット（点）は黒い太線よりも上側に位置するため、2018年漁期のFは、当該漁獲管理規則案に基づくFを上回っている。

※βや漁獲管理規則案については「検討結果の読み方」を参照

マサバ (太平洋系群) ④

■ 将来の親魚量と漁獲量の予測

漁獲管理規則案（現状の漁獲圧は参考）に基づいて算出

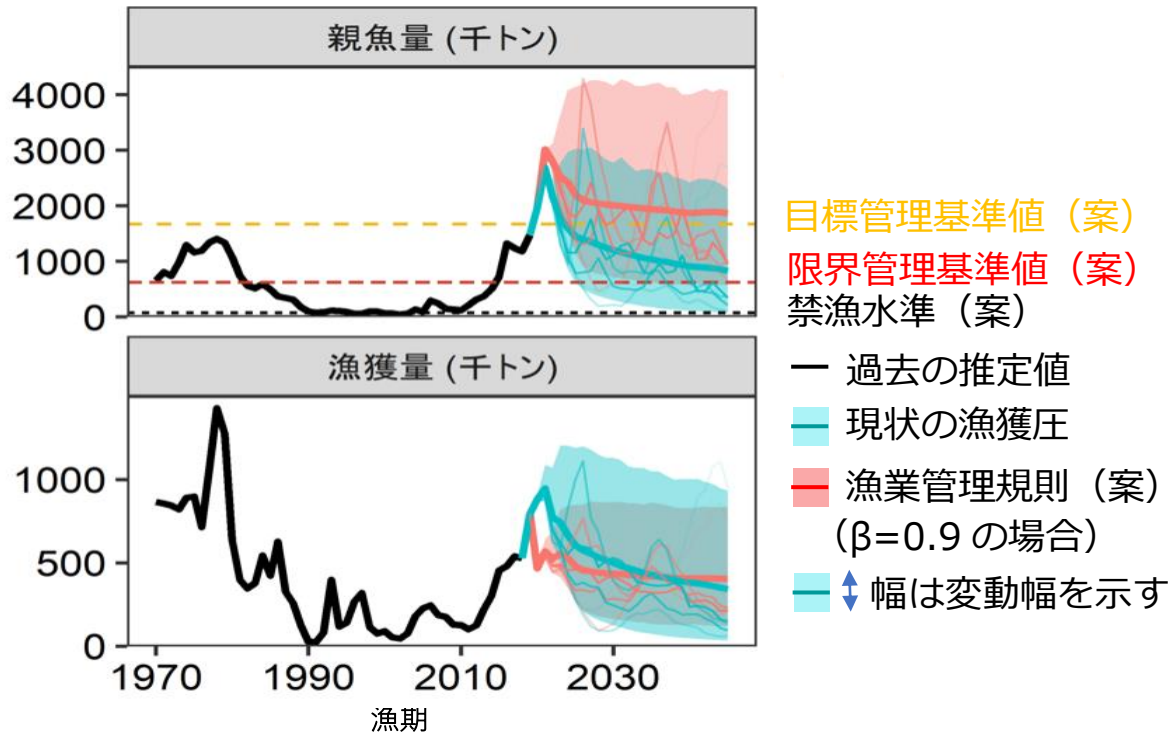


図9 親魚量と漁獲量の将来予測

β を0.9とした場合の漁獲管理規則案に基づく、親魚量は、良い加入が期待されている2016~2018年級群の加入により増加した後は、平均的には緩やかに減少する。 β が0.9以下の漁獲管理規則案であれば、10年後に目標管理基準値案を50%以上の確率で上回る(表)。

表 管理基準値案を上回る確率と2020年漁期の漁獲量

β	10年後(2030年漁期)に親魚量が限界管理基準値(案)を上回る確率(%)	10年後(2030年漁期)に親魚量が目標管理基準値(案)を上回る確率(%)	2020年漁期の漁獲量(千トン)
1	96%	47%	523
0.9	97%	52%	474
0.8	98%	56%	424
0.7	99%	61%	374
0.6	99%	65%	323
0.5	100%	70%	271
0.4	100%	76%	218
0.3	100%	81%	165
0.2	100%	86%	111
0.1	100%	90%	56
0	100%	94%	0

シミュレーションによる確率や将来の漁獲量は、資源評価により今後もアップデートされます。

管理基準値、禁漁水準および漁獲管理規則については、8月に開催された資源管理方針に関する検討会(ステークホルダー会合)に提案したものである。その後の資源評価の更新を反映して本資料を作成した。